

『 作 物 』 シラバス

科 目 名	学 科	学 年	必修 / 選択	単 位 数
作 物	農 業 科	3 年	選 択	3 単 位

1 . 科目目標と使用教材

科目目標	イネ・ムギ・ダイズの通年栽培計画表を作成することができ、施肥設計・栽培管理・品種の選択など実践的な学習を行うことができる。また、その他の作物の学習を行い、栽培方法を理解し管理することができる。
使用教材	教科書：作物（農文協） 作成プリント

2 . 学習計画

学期	学 習 項 目	学 習 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・イネの栽培計画書の作成 栽培管理 施肥設計 農薬・肥料計算 ・イネの出穂・収量判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培計画書の作成 ・土壌分析などをもとに、自ら施肥設計を立てることができる。出穂・水管理の状況を把握しながら、管理ができる。 ・肥料、農薬計算法を理解できる。 ・幼穂調査を行い出穂予定日を判断できる。 ・収量調査、食味調査を行い、品質を判断できる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ムギ、ダイズの栽培 *夏蒔きコムギ栽培 *ダイズ栽培 (栽培の特性、管理方法、肥料設計、病害虫防除) ・ダイズの利用法 	<ul style="list-style-type: none"> ・コムギ・ダイズ栽培計画書を作成し、施肥設計を立てることができる。 ・夏蒔きコムギ・ダイズ栽培法を通して水田裏作物を考える。 ・コムギ・ダイズ栽培の特性、管理方法、肥料設計、病害虫防除法を理解できる。 ・ダイズの収穫、利用法を学ぶ。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・イネ、ムギ、ダイズの栽培計画書を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容の復習を通して栽培計画書を作成する。

3. 学習方法

イネ・コムギ・ダイズを栽培作物の教材として取り入れ、栽培を通して肥料設計・栽培計画等を実験・実習を通して技術を習得できる学習内容とする。また、栽培計画書を作成させ、栽培内容の理解をはかる。

4. 評価の観点

関心・意欲・態度	イネ・コムギ・ダイズについて関心を持ち、自ら進んで学習に参加し、各自栽培計画書・立案を行うことができる。
思考・判断	適切な水管理・栽培計画・幼穂観察などを行うことができ、自らの判断で行動することができる。 コムギ・ダイズ栽培を通して自ら栽培法を学ぶことができる。
技能・表現	栽培土壌にあった適切な管理・運営の計画を立てることができる。 ムギとイネの栽培方法の違いがわかる。
知識・理解	農薬や肥料などの計算を行うことができ、詳しい内容を把握することができる。 肥料設計・農薬計算を自ら行うことができる。

5. 成績評価

1・2学期	中間	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>100 %</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期考査 (素点)	平 常 点				100 %	%	%	%	%
	定期考査 (素点)	平 常 点										
100 %	%	%	%	%								
	期末	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>70 %</td> <td>授業態度 20 %</td> <td>提出物 10 %</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期考査 (素点)	平 常 点				70 %	授業態度 20 %	提出物 10 %	%	%
定期考査 (素点)	平 常 点											
70 %	授業態度 20 %	提出物 10 %	%	%								
3学期	学年末	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>70 %</td> <td>授業態度 20 %</td> <td>提出物 10 %</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期考査 (素点)	平 常 点				70 %	授業態度 20 %	提出物 10 %	%	%
定期考査 (素点)	平 常 点											
70 %	授業態度 20 %	提出物 10 %	%	%								

6. 生徒の皆さんへ

栽培の計画を立てて、卒業後すぐにも水稻栽培ができるような実践的な授業を行っていきましょう。作物に関しては「できる」、「教える」、「話せる」というような自信が持てるまでしっかりと学んでいきましょう。